

青森県北部の歴史遺産・産業遺産を巡るツアーに参加して

函館工業高等専門学校の荏澤先生、中村先生を講師にお招きしての歴史遺産、土木・産業遺産を巡るツアーも今年で3回目となりました。第1回（2005年）の渡島半島東部、第2回（2006年）の檜山南部に引き続き、2007年、第3回の研修ツアーは、いよいよ津軽海峡を渡り、青森県北部の歴史遺産・産業遺産を巡るツアーとして企画されました。

☆研修ツアーの概要

研修日程 2007年（平成19年）10月13日（土）
～14日（日）

第1日目

東日本フェリー函館ターミナル→フェリーで移動
→大間（昼食）→大間稲荷神社→大間鉄道遺構視察→恐山霊場見学→野辺地・ビジネスランド豊楽に宿泊

第2日目

バスにて十三湖へ移動→福島城跡外郭土塁の見学→福島城跡内郭発掘調査箇所の見学→山王坊日吉神社の見学→唐川城跡展望台→三内丸山遺跡の見学→青森フェリーターミナル→高速フェリー・ナッチャンRera→函館フェリーターミナルで解散

講師

荏澤憲吉 教授

（函館工業高等専門学校 環境都市工学科）

中村和之 教授

（函館工業高等専門学校 一般科目人文系）

参加者

道南技術士会他 15名

☆研修ツアーの状況

1. 旧国鉄大間線（大畑一大間）鉄道土木遺産群
北海道側、旧戸井線の鉄道遺構については第1回

の研修ツアーで視察を行いました。津軽海峡を挟んだ青森県下北半島大間町にも同様に、未成に終わったコンクリートアーチ橋などの構造物が残されています。大間線（大畑一大間間）は1936年（昭和11年）に着工され、総延長は30.420kmであったとされています。第2次世界大戦中も劣悪な環境の中で工事は継続されましたが、工事は桑畑村に二夕川に建設された橋台付近で中断しており、未着工区間13.620kmを残し1942年（昭和17年）9月に中止



写真－1 下風呂温泉アーチ橋



写真－2 二枚橋橋梁

命令が出されました。今回は、菰澤先生の解説によって、大間から大畑にかけて、それらの鉄道遺構群をたどることにしました。

大間線の鉄道遺構が戸井線のそれと大きく異なるのは、構造物が人々の住む環境に中にとけ込むように点在していることでしょう。下風呂温泉アーチ橋(13連 112m)は、きれいに補修がなされ、温泉街の遊歩道として整備、活用されています。中でも見事であったのは二枚橋橋梁(7連アーチ 101.5m)であり、その機能性が醸し出す美しい姿を、ぜひそのまま残してほしいと感じました。

これらのコンクリート構造物は、中には風化の進んでいるものもありましたが、多くは今でも健全であり、資材や労働力が十分に得られない中で高品質の構造物を造り上げた当時の技術者たちの精神と力量が偲ばれます。

2. 霊場恐山

大間線鉄道遺構の見学を終え、途中、今は廃線となった旧大畑駅に立ち寄り、バスは恐山へと向かいました。恐山は、今からおおよそ1200年前、慈覚大師円仁によって開かれた霊場であり、あまりにも有名です。見学では、総門から入り、山門、地藏殿を経て極楽浜へとゆっくりと辿りました。時間が止まったような荒涼とした風景の中で、参加者はそれぞれ、何か感じるものがあつたのではないのでしょうか。恐山のあとは六ヶ所村原燃PRセンターを見学する計画でしたが、残念ながら時間切れとなり、そのまま



写真-3 霊場恐山地蔵殿

宿泊地である野辺地へ向かうことになりました。

3. 十三湖・福島城跡

前日の下北半島縦断のツアーから一夜明けて、二日目は、バスは一気に津軽半島の北部、日本海側に位置する十三湖へと向かいました。最初に訪れた福島城跡では、外郭土塁から内郭へと、中村先生にご照会いただいた五所川原市教育委員会の榊原慈高氏(十三湊発掘調査室主査)の解説と案内によって見学しました。

福島城跡は、近世の編纂物「十三往来」や「十三湊新城記」に登場する「新城」ではないかとされています。「新城」は、鎌倉時代後期の正和年中(1312~17)に安倍(安藤)貞季が築いた城郭と記されていることから、安藤氏の居城と理解されているとのことです。外郭土塁では、平成17年度に行われ



写真-4 福島城跡外郭



写真-5 福島城跡内郭

た青森県教育委員会によって行われた発掘調査の状況や成果について解説され、外郭土塁の構造と門跡を伴った出入口施設を見学しました。引き続き、福島城跡内郭に移動し、8月から10月にかけて青森県教育委員会によって行われた発掘調査の箇所を見学しました。福島城跡の内郭の在り方は函館の志海苔館跡と非常によく似ているようで、年代もほぼ同時期であることが注目されているとのこと。見学した発掘箇所は遺構確認調査が終了しており、本来であれば埋め戻すところを、今回の研修ツアーのために埋め戻さずに残しておいて下さったそうです。そのご厚意に、心より感謝いたします。

4. 山王坊日吉神社・唐川城跡展望台

福島城跡から、バスは山王坊日吉神社へと移動しました。着いたところは杉の巨木の中で昼なお暗く、

いかにも霊場という雰囲気が漂っています。山王坊日吉神社では、1982年、東北学院大学によって発掘調査が実施され、十三湊の繁栄と同時期の遺物や建物の礎石が出土したことから、安藤氏に関する宗教施設であった考えられています。この神社は、滋賀県大津市の日吉神社の末社をして建設されたもので、鳥居は山王鳥居（合掌鳥居）の一種で最上部に笠木のある二重鳥居は全国的にも珍しいものだそうです。榊原主査の案内によって一巡しましたが、薄暗いなか木漏れ日に輝く苔の緑が印象的でした。

日吉神社を後にして、次は唐川城跡展望台へと移動です。唐川城跡は、標高約120mの山岳地帯に位置し、天然の地形を利用した中世の山城跡です。ここからは、これまで見てきた福島城跡、十三湖をはじめ、遠く岩木山をまではっきりと見渡すことができました。



写真－6 山王坊日吉神社



写真－8 三内丸山遺跡・竪穴式住居群



写真－7 唐川城跡



写真－9 三内丸山遺跡・大型掘立柱建物

5. 三内丸山遺跡

最後の見学地は三内丸山遺跡です。三内丸山遺跡はすでに江戸時代から知られており、遺跡に関する最も古い記録として、山崎立朴の『永禄日記（館野越本）』（1623年）があります。平成4年度から始まった県営野球場建設に先立つ発掘調査で、前例のない巨大な集落跡が姿をあらわしたことから、途中まで進めていた野球場の建設工事を即時中止することとし、遺跡の永久保存と活用が決定されました。

広大な敷地の中に点在する遺跡や、復元された縄文時代の建造物を、自由に散策しながら見学することができました。ただ、帰りのフェリーの時間が迫っており、十分に時間を取ることができなかったのが残念です。

6. ナッチャン Rera

青森から函館への帰路では、9月1日に就航したばかりの高速フェリー、ナッチャン Rera を体験することができました。実は、この研修ツアーの中で、私が最も楽しみにしていたのは、このナッチャン Rera だったかもしれません。総アルミ合金製のハイテク船による船旅は想像以上に快適で、船室からの眺めの良さと今まで経験したことのないスピード感で、1時間45分の乗船時間があっという間に過ぎてしまいました。少し暗くなり始めた夕方、無事に函館フェリーターミナルに到着し、なんとなく漂う名残惜しさのなかでの解散となりました。

☆おわりに

今回で3回目となった「歴史遺産・産業遺産を巡るツアー」も盛りだくさんの内容で、たいへん有意義なものとなりました。韭澤先生は、入念な事前調査の資料を基に丁寧に解説してくださり、われわれにとってはそれらが大きな発見の連続になりました。また、縄文時代、あるいは日本の中世の出来事や人々の暮らしの様子を、たった今そこで見てきたような臨場感をもって話される中村先生の解説には、いつも引き込まれてしまいます。

話題は既に、「来年はどこへ？」となっています。



写真-10 ナッチャン Rera



写真-11 韭澤先生と中村先生（船内にて）



写真-12 おまけ（大間のマグロ丼 美味……）

参加者の知的好奇心を満たして余りあるこの研修ツアー、次回を楽しみにして今回の報告を閉じることといたします。

（文責：道南技術士会幹事 澤村 秀治）